

子育てしやすい世の中へ

1. 私たちは身の回りにあるジェンダー差別を解決したいと思い、SDGsの5番ジェンダー平等を実現しように乗っ取り、家庭内差別について探究した。今問題になっている少子化やDVも家庭の環境が良ければ減らすことができると思い、一人で抱え込まず、周りがサポートできる社会の環境づくりを目標に探究を進めた。

2. 身の回りにおけるジェンダー差別

日本の固定概念

男→仕事
女→家事



共働きが増えて
いる中、片方に負担
が偏っているの
では？

3. 原因・推測

原因) 仕事時間が関係している？

子育て大国スウェーデンと比較してみた！



思ったより、差が無かった

子持ちの家事家庭ケア率



日本はワースト1位
という事が分かった

仕事時間ではなく、昔からの日本の
考えが問題だということがわかる

推測1

一人で悩んでしまう(うつ症状)



自分は母親なのに、
その仕事ができない...

推測2

2. まわりにあたってしまう
虐待のケースにも繋がるのでは？

国	虐待の発生率
日本	20%
アメリカ	25%
イギリス	28%
フランス	30%
スウェーデン	35%
ドイツ	38%

虐待の原因を調
べてみると関係し
ている事が分
かった

6. まとめ

固定概念による影響が家庭内での不満だけではなく、虐待にも繋がる事が分かった。この概念を取り除くために私たちや社会に出来ること、そして、お手本の国であるスウェーデンの取り組みを紹介することが、子育てしやすい世の中へ繋がると言える。評価基準は現時点では4と評価し、次回のポスター発表で5を達成する予定だ。

・「夫が家事をしない国」出典労働政策研究機構舞田敏彦
Pref/kanagawa.jp
「一人当たり平均年間総労働時間」よりcareerlab.tensyoku/mynavi.jp
2021年1月15日閲覧
貧困は本当に児童虐待の原因か？ News.yahoo.co.jp2021年1月15日閲覧

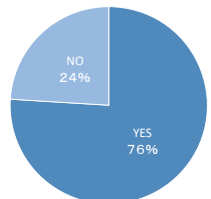
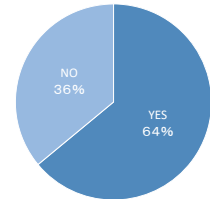
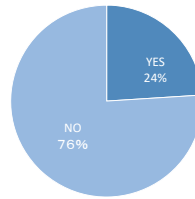
4. 実行

・日本の偏っている考えをなくしたい
・悩んでいる人たちが案にできるような
パンフレットを作成したい

そのために、...

アンケートを実施
鴨田ほいくえん147世帯

一人で悩んだことはあるか？ 八つ当たりをしたことはあるか？ 相手に不満はあるか？



グラフから分かるように、私たちの推測はあっていることが分かった

5. 改善策・課題

1のグラフから分かるように、約4分の1の人が悩んだことがある

相談窓口例



ラインなどでパッと悩みを相談できるものを作る

根本的解決

社会の体制を変える必要がある
・保育士さんの待遇を良くする
男性の育児休暇の普及
・保育料の減額
子供が理由の休みが有給消化や欠勤にならない制度

スウェーデン
1960年までは日本と同じような状況

好景気に伴って女性も働き手に

女性たちが今までやってきた育児や家事は誰がやるの？

男女が平等に生活をおくる為に女性たちは政治に進出する

女性の代わりに福祉をとまぬ保健所や介護施設などを増やす必要がある！
育児や介護支援サービスの拡充に多くの予算が配分され、法律や制度も仕事と家庭を両立しやすいように変わった。

自分たちが出来ること

家事は女性がして当たり前にするという考えをやめる

・お互いに感謝の気持ちを頻りに伝える
・自分の頑張りを認める
・沢山話し合いをして、自分たちにあう家事分担スタイルを決める

ポスター配布